

被災地の子どもたちに元気と希望を

～今、わたしたちにできる効果的・継続的な支援活動を～

東北地方太平洋沖地震の発生からまもなく3か月が経過しようとしています。改めて被災されました方々へ、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を祈念いたします。

さて、本校においては、代表委員会の呼びかけによる義援金の募金活動にすぐさま取り組み、わずか4日間という日数にもかかわらず74万円もの義援金をお寄せいただきました。PTA会費からの20万円と合わせて、3月29日に神戸市社会福祉協議会に預託をさせていただきました。しかし、新年度になり始業式や避難訓練等の行事で黙祷をささげるなど、哀悼の意を表すことはありましたが、具体的な支援活動を継続するまでには至っていませんでした。そのため、阪神・淡路大震災の時に全国の皆様から様々な形で支援をしていただき、そのありがたさや苦労を、身をもって体験しておりながら行動に移せていない自分自身へのもどかしさを一方では感じていました。

このような状況の中、生死が不明であった岩手県大船渡市に住む30年以上の付き合いが続いている友人たちと、つい先日連絡をとることができました。彼らは岩手県陸前高田市立高田小学校と、岩手県大船渡市立越喜来（おきらい）小学校に勤めています。現地の様子を伺うとともに、送られてきた写真を見ると、その惨状が生々しく伝わってきます。高田小学校の運動場は瓦礫で埋まり、越喜来小学校は3階まで水をかぶり全壊しました。地震が起きた時、越喜来小学校では下校直前で、子どもたち全員が揃って避難をしたため無事であったそうです。しかし、高田小学校では、保護者とともに先に下校をした子どもたち6名が犠牲になり、1名がまだ行方不明とのことです。

何度かやりとりをしていると、テレビや新聞などの報道からは感じられない何かを感じ、阪神・淡路大震災を経験しているわたしたちだからこそ、何かできることがあるのではないかと強い思いを抱くようになりました。その思いを、5月23日のテレビ朝会で子どもたちに呼びかけました。今学校では、学級や学年、代表委員会などでどのようなことができるかを考えているところです。『効果的、継続的な支援活動を目に見える形で行っていくことで、本校の子どもたちが得るものもきっと大きなものがある』と信じています。ぜひご家庭におかれましても、一度話題にしていただきますようお願いいたします。

なお、5月末現在、100名以上が転校をした高田小学校では、少しずつ平静を取り戻し、中庭で元気に遊ぶ姿が見られるようになったそうです。また、学校が使えなくなった越喜来小学校は、隣の学校に移り3校が一緒になって勉強をしているようです。

平成23年5月31日

神戸市立御影北小学校
校長 三木 健 司